

研究活動

佐藤 隆彦

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)						
1. 『密教の実践 解説』密教大系第9巻	共著	1994. 11 (平成6年11月)	法蔵館		松長有慶と共著	
2. 『真言宗の法式』乾	共著	1996. 2 (平成8年2月)	斎々坊	真言宗の法式について各流派にわたるとともに、初めて写真で解説した書物	添野智識・新井弘順 佐藤正伸	
3. 『真言宗の法式』坤	共著	1997. 4 (平成9年4月)	斎々坊	真言宗の法式について各流派にわたるとともに、初めて写真で解説した書物		
4. 守覚法親王と仁和寺御の文献学的研究 「守覚法親王作『十八道第』について」	共著	1998. 2 (平成10年2月)	勉誠社	論文篇	阿部泰明・山崎 誠 上川通夫・土谷 恵 小島裕子・佐藤正伸 横内祐人・福島金治 松崗 斉・松尾恒一	389-416頁
5. 仏教における日常生活 「真言宗における灌頂」意義	共著	1998. 8 (平成10年8月)	平楽寺書店		清水 乞・平井省慶 武 覚超・岡 亮二 紅樺英顕・徳永大信 高城宏明・佐藤正伸 角田泰隆・中尾良信 鍵主良敬・一楽 真 田代俊孝・皆川広義 田中典彦・芳村博実 前田恵學・鈴木岩弓 山口しのぶ・山極伸之 前谷忠緒・Shoryu Katsura 鈴木岩弓・池上要靖 阿 理生・下田正弘	
6. 四度加行 上	単著	2000. 12 (平成12年12月)	四季社	十八道次第の典拠となる『無量寿軌』十八契印』、金剛界次第の典拠となる蓮華部心軌』についての研究		
7. 四度加行 中	単著	2001. 7 (平成13年7月)	四季社	胎藏次第の典拠となる『青龍軌』についての研究		
8. 四度加行 下	共著	2002. 1 (平成14年1月)	四季社	護摩次第の典拠となる『瑜伽護摩軌』『建立護摩軌』についての研究	北原裕全と共著	255-477頁
9. 『三僧記類聚』に関する 合的研究	共著	2002. 3 (平成14年3月)	高野山大学文学部 研究代表武内孝善	『三僧記類聚』に関する総合的研究	武内孝善、竹内 信夫と共著	224-247頁
10. 別行次第秘記 一	単著	2002. 12 (平成14年12月)	四季社	浄嚴撰述『別行次第秘記』についての研究		
11. 成賢作法集	共著	2003. 6 (平成15年6月)	四季社	真言祈祷大系Ⅲ 編集代表をつとめるとともに解説を執筆	川崎一洋と共著	502-530頁
12. 御流神道堅横印信	共著	2003. 7 (平成15年7月)	四季社	真言祈祷大系Ⅱ 編集代表をつとめるとともに解説を執筆	北原裕全と共著	504-506頁
13. 家族のあり方と仏教	共著	2004. 1 (平成16年1月)	平楽寺書店		土田隆太郎 等同僚共 立川武蔵他27名 で執筆	163-175頁
14. 密教史概説の手引き	共著	2004. 3 (平成16年3月)	高野山大学通信教育室		武内孝善、奥山 直司と共著	63-69頁
15. 真言宗祈願作法集成	共著	2005. 3 (平成17年3月)	四季社	共同編集と解説を担当	小林弘潤、曾根義泉 辻雅榮 美松寛昭 と共同編集	318-328頁
16. 真言宗祈願作法手文三巻	共著	2005. 6 (平成17年6月)	四季社	上記12の本を実用的に次第にしたもの	12と同	
17. 阿字観の実習とその現代意義	単著	2010. 2 (平成22年2月)	高野山大学	高野山大学 いのちのセミナー テキ ト		

18. 受戒について	単著	2010. 3 (平成22年3月)	大本山大覚寺	サーガラ叢書12として刊行されたもので、受戒の意義について述べたもの	
(学術論文)					
1. 『十八道念誦次第』の徴について (Ⅰ)	単著	1986. 3 (昭和61年3月)	密教学会報25 高野山大学		72-85頁
2. 『十八道念誦次第』の徴について (Ⅱ)	単著	1987. 3 (昭和62年3月)	密教学会報26 高野山大学		84-98頁
3. 理趣経法について	単著	1988. 3 (昭和63年3月)	宗教研究275		183-184頁
4. 『五輪投地次第』の作について	単著	1988. 3 (昭和63年3月)	密教学研究20 日本密教学会		73-84頁
5. 『胎蔵略次第』について	単著	1989. 12 (平成元年12月)	密教文化167 高野山大学		22-31頁
6. 『十八道念誦次第』について - 結界法を中心として -	単著	1991. 2 (平成3年2月)	密教文化173 高野山大学		54-72頁
7. 『胎蔵大法対受記』について(一) - 円珍の説を心として(上)	単著	1991. 2 (平成3年2月)	高野山大学論叢26 高野山大学		73-97頁
8. 護身法について	単著	1993. 5 (平成5年5月)	高野山大学論叢28 高野山大学		1-16頁
9. 勸請法について - 『十道念誦次第』を中心とし	単著	1994. 3 (平成6年3月)	密教学研究26 日本密教学会		123-135頁
10. 『十八道念誦次第』の立過程について	単著	1995. 2 (平成7年2月)	高野山大学論叢30 高野山大学		1-20頁
11. 浄敵の一座行法理解について - 『別行次第秘記』中心として -	単著	1996. 3 (平成8年3月)	印度学仏教学研究 88 44-2 日本印度学仏教学会		254-258頁
12. 『一法界ソリヤ法』について	単著	1996. 9. (平成8年9月)	高野山大学創立百十周年記念 高野山大学論文集		171-185頁
13. 浄三業について	単著	1997. 1 (平成9年1月)	密教文化研究所紀要 10		37-61頁
14. 空海作十八道次第の研究	単著	1997. 3 (平成9年3月)	空海研究 福建美術出版		301-315頁
15. 『五輪投地次第』について	単著	1998. 1 (平成10年1月)	密教文化研究所紀要 密教文化研究所		81-186頁
16. 真言宗における灌頂の義	単著	1998. 4 (平成10年4月)	日本仏教学会年報 63号		107-120頁
17. 日本密教受容の背景についての一考察 - 浄行をワードとして -	単著	1999. 1 (平成11年1月)	高野山大学密教文化 研究所紀要別冊 1		35-60頁
18. 密教福祉と阿字観 - 阿字観の無限の可能性 -	単著	2001. 3 (平成13年3月)	密教福祉1号		130-150頁
19. ターミナルケアと阿息観 - 真言宗における死と看取	単著	2002. 3 (平成14年3月)	密教福祉2号		99-120頁
20. 密教学と密教福祉	単著	2004. 5 (平成16年5月)	日本仏教学会年報69号		163-175頁
21. 真言密教における在家と関わり - 現代的意義を論ずるに欠くべからざる視点 -	単著	2007. 3 (平成19年3月)	密教学研究39号		71-84頁
22. The Modern Significance of Shingon Esoteric	単著	2008. 9 (平成20年9月)	Executive Committee Koyasan University		66-77頁

Meditation					
23. 『真言宗古字書資料集』説	単著	2009. 3 (平成21年3月)	高野山大学密教文化研究所		1-32頁
24. 秘密灌頂について―一台密の関わりについて―	単著	2010. 3 (平成22年3月)	密教学研究42号		27-47頁
(その他)					
1. 新刊紹介『真言密教印写真解説』		1991. 3 (平成3年3月)	密教学研究23 日本密教学会		218-222頁
2. 密教を知るための手引『事相』		1994. 3 (平成6年3月)	密教学会報33 高野山大学	解説	155-173頁
3. 伝授受法 (安祥寺流・勸修寺流・心院流・三宝院流・西大流・西院流・保寿院流・辱山流・伝法院流・小島流・中院流・持明院流・沢諸法流・御流神道)					
4. 『密教を知るためのブックガイド』	共著	1995. 11 (平成7年11月)	法蔵館		207-227頁
5. 新安流四度口訣集 上・中・下巻		1996. 4 (平成8年4月)	隆昌堂	編集・校正	
6. 高野山七弁天		1996. 7 (平成8年7月)	高野山大学学報36		13-17頁
7. 祈禱(『日本の仏教』6)	共著	1996. 8 (平成8年8月)	法蔵館		84-88頁
8. 生命倫理シンポジウム 死と看取り		1996. 2 (平成8年2月)	高野山時報に掲載 (10回)		
9. 稲荷大会参加雑感		1997. 6 (平成9年6月)	宗教民俗研究第7号 宗教民俗研究会		111-112頁
10. 『覚禪鈔』についての文献学的研究		1999. 11 (平成11年11月)	鹿島美術研究 年報16号別冊	共同報告 代表：上川通夫	
11. 絆 (口頭発表)	共著	2007. 6 (平成19年6月)	高野山大学	高野山大学人権講話集	46-51頁
1. 勸請法について		1993. 9 (平成5年9月)	密教研究会 高野山大学		
2. 勸請法について―『十道念誦次第』を中心として―		1993. 11 (平成5年11月)	日本密教学会 護国寺		
3. 浄厳の一座行法理解について―『別行次第秘記』中心として―		1995. 7 (平成7年7月)	日本印度学仏教学会 花園大学		
4. 『十八道念誦次第』の立過程について		1995. 11 (平成7年11月)	空海研究会 中国福建省		
5. 真言宗における灌頂の義		1997. 10 (平成9年10月)	日本仏教学会 東洋大学		
6. 奈良時代の密教について		1997. 12 (平成9年12月)	平安仏教研究会 叡山学院		
7. 六字経法について		1998. 10 (平成10年10月)	日本密教学会 種智院大学		
8. 『覚禪鈔』について―六字経法を中心に―		1999. 12 (平成11年12月)	覚禪鈔研究会 東寺宝物館		

所属	文学部	職名	教授	佐藤隆彦	大学院の授業担当の有無 (無)
教育活動					
教育上の主な業績		年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		1997. 7. 29 ～8. 1 (平成9年7月29日 —8月1日)	随心院所蔵『覚禅鈔』の聖教調査にゼミ学生とともに参加。 実地指導を行う。 ゼミの学生と卒業生の為のメーリングリストを作成し、連絡 に用いるとともに懇親を図っている。		
2. 作成した教科書、 教材、参考書		1988. 3 (昭和63年3月) 1996. 3 (平成8年3月)	理趣教法について 『一法界ソリヤ法』について		
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等					
4. その他教育活動上 特記すべき事項					

[illegible]